

## 児童の反応・感想

○【場面①】全員がCの伝え方が良いと答えた。その理由は以下の通り。

Aの伝え方：言い方がきつい。

怒りを買うと思う。

Bの伝え方：やさしい言い方だが、言いたいことが伝わらず、解決しないと思う。

本当に伝えたいことが言えていない。

説得力がない。

Cの伝え方：相手を傷つけていないし、納得できる言い方。

やさしい言い方だし、伝えたいことを言えていて良い。

○3つの言い方を一般化し、自分はどのタイプに近い伝え方を多くしているか自己分析

A→「攻撃型」…13人

B→「遠慮型」…15人

C→「調和型」…11人

伝えたいことが伝えにくい児童が多いことや、相手に正確に伝わり、冷静に受け止めてもらえるようにする伝え方が日常生活の中でいかに難しいかが分かった結果となった。

### 学習活動2 グループで意見を交流する。



○その他の場面で「調和型」を意識した児童の意見

【場面②】燃えるごみ専用のごみ箱に、びんを捨てているところを見かけた。

→ここは燃えるごみ専用ですよ。今日は私が捨てとくから、次は気を付けてね。

→ここは燃えるごみ専用ですよ。あっちにびん専用のごみ箱があるので一緒に行きませんか。

【場面④】至急、委員会に出席するように言われたが、習い事の時間に重なって行けない。

→今日は習い事があるのでいけません。後で内容を教えてもらえませんか。

→今日は習い事があるのでいけません。明日なら時間があります。明日に時間の変更はできませんか。

【場面⑤】友だちの家で、砂糖がたっぷり入った紅茶を出してくれたが、あまいものは苦手だ。

→ありがとう。でも甘いのは苦手なんだ。

※【場面③】友だちが、暑いからと、教室の窓を開けたが、自分は寒いと感じている。

考えたグループなし



### 【学習のふり取りより】

- ・ その人を責めるのではなく、解決する方向に向けてみんなと話し合いなどをしていきたいと思いました。また、もっと自分の意見を主張できるようになりたいです。
- ・ 伝えにくいことを伝えるときは、相手の気持ちも考えて、どちらも平等になるように相手と話し合うことが大事だと思いました。
- ・ ふいに出した言葉で人を傷つけないので、人を傷つけないようにことば選びをして生活したいです。
- ・ 自分はきつく言ってしまうくせがあって、知らない所で言った相手を傷つけているかもしれないです。だから、自分の気持ちに素直になって、きつく言うのではなくて、やわらかく言えるように工夫したいです。

※おかしいなと気づき、考え、行動できる児童の育成をめざしている。実際に起こりうる場面を想定し、伝えにくいことをどのように伝えるとよいか考える経験はこれからの生活につながると思う。今後も様々な教科でこのような実践を積み重ねていきたい。